

『僕が使ったペットボトルはどこへ行く?』

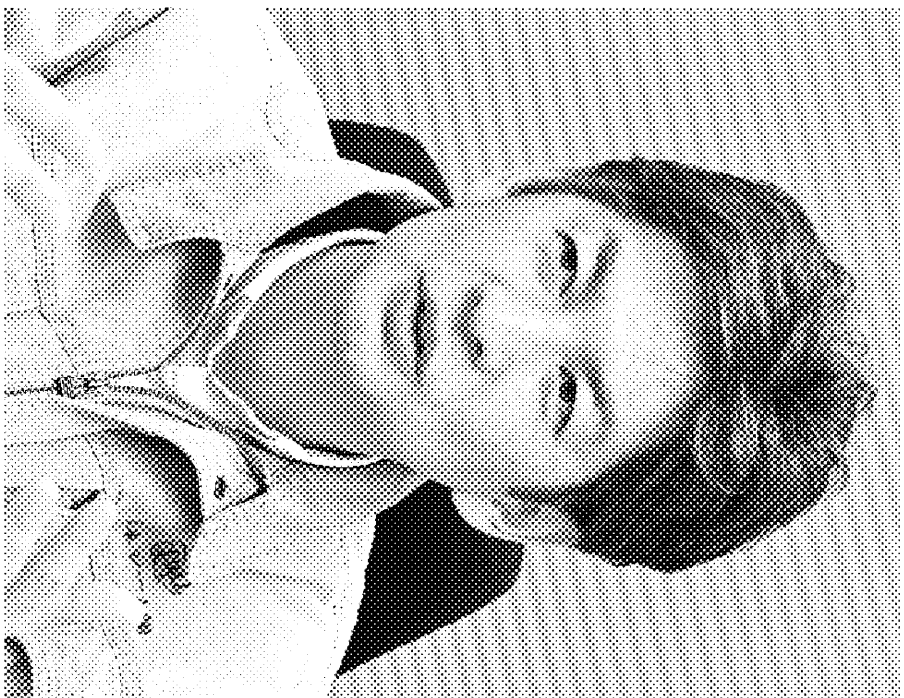
資源循環 全体像正しく伝える

(クロスメディア・パブリッシング 03・5413・3140)

「なぜ機械メーカーの社長が子ども向けの本を執筆したのでしょうか。僕は、ペットボトルやプラスチックからコップなどを作るアップサイクル体験会を全国各地で開催するなど、環境に関心を持ってもらう活動も行ってきた。2025年は欧州の第一線で活躍するリサイクル事業者や研究者を日本に招き、クロイブ・ループ・エコノミー(完全循環経済)の国際フォーラムを開いた。その中で本の出版を依頼され、機械屋が書く専門書ではなく、子どもから大人まで幅広く読める内容にしたいと考えた」

「見開きページの左側がイラスト、右側が文章という構成です。「全クシヨンの文章をアップサイクルで作成して原稿にした。当初はイラストを考案する倍のイラストを作ってしまった、内容を半分削った。プラスチックの歴史やリット・チャリット、捨てられたものの行き先として『燃やす』『埋める』『リサイクル』『海へ捨てる』という四つのルートを解説し、循環社会を作るには正しく知ることが重要だと主張した」

「執筆のために新たにイラストを調べた。マイクロプラスチックが海底に約10万トンあると推定されることや、すでに動物のふんにも混じっていることなども盛り



登場者

木口 達也氏
 きくち たつや
 日本シーム社長

大学卒業後、教育出版事業に従事。01年(平13)に父が創業した日本シームに入社。08年社長。サキユウ1エコノミー(循環経済)の実践者・伝道者として、「廃プラスチックの再資源化」や「循環社会の構築」をテーマにした講演が多数行っている。

埼玉出身、48歳。

「今起きている問題は、原材料をただ消費するだけのリニア(線形)経済も大きな要因の一つに思っていると思う。2024年に閣議決定した第5次循環型社会形成推進基本計画で政府は『資源循環を国家戦略に』と打ち出した。資源枯渇という将来への課題を人類は抱え続けている。循環型社会を表現することで資源の消費を減らすことができる。ナフカの供給不足が懸念されています。プラスチックの原料となるナフカの供給」

「マイクロプラスチックの影響でプラスチックの原料となるナフカの供給不足が懸念されています。プラスチックの原料となるナフカの供給」

「今起きている問題は、原材料をただ消費するだけのリニア(線形)経済も大きな要因の一つに思っていると思う。2024年に閣議決定した第5次循環型社会形成推進基本計画で政府は『資源循環を国家戦略に』と打ち出した。資源枯渇という将来への課題を人類は抱え続けている。循環型社会を表現することで資源の消費を減らすことができる。ナフカの供給不足が懸念されています。プラスチックの原料となるナフカの供給」

「プラスチックサイクルの全体像を示した分かります。本は私の知る限りこれまでなかった。客観的な事実を提示することで、今の地球がどれほど環境汚染に悩まれているかを理解してほしい。欧州では再生材の配合率を大きく表示したシヤンパーなどのホテルが店頭に並んでいる。多少値段は高くなつたとしても再生材を使った製品を優先し、とする消費者のトレンドが育っている。経済含

「プラスチックサイクルの全体像を示した分かります。本は私の知る限りこれまでなかった。客観的な事実を提示することで、今の地球がどれほど環境汚染に悩まれているかを理解してほしい。欧州では再生材の配合率を大きく表示したシヤンパーなどのホテルが店頭に並んでいる。多少値段は高くなつたとしても再生材を使った製品を優先し、とする消費者のトレンドが育っている。経済含

れしい」(さいたま・天野博光)